

令和6年度武蔵村山市立学校 学校経営方針

学校名 大南学園第四中学校

校長名 福泉 宏介

教育目標

小学生の憧れとなるために

- ・ 知を磨く生徒 (自主・自立)
- ・ 徳を積む生徒 (共生・貢献)
- ・ 体を鍛える生徒 (健康・大志)

1 目指す特色ある学校像

小中9年間を通し、「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を図る
〈生徒〉 確かな学力、豊かな人間性、健康・体力をバランスよく身に付けた生徒
〈教師〉 生徒を温かく見守り、「主体的・対話的で深い学び」で学力を伸ばす教師
〈学校〉 コミュニティスクールの機能を生かして、保護者・地域と情報や理念を共有して小中
一貫教育を進める学校

2 経営の具体策

- (1) 各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、まちづくり学習
- ① 言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を養い、生徒一人一人が主体的に学習に取り組む態度を育てる。また、他者と協働して課題解決を図る学習を展開する。
 - ② 生徒一人一台端末、ネットワーク環境の有効利用を図り、個別最適化された学習を提供する。
 - ③ 放課後や長期休業日に補充的な学習を実施する。また、朝の学習会や放課後のチャレンジ教室によって、基礎学力の定着を図る。
 - ④ 道徳で、ローテーション授業を行うことで、多面的に考え、自分事として議論する授業を行う。
 - ⑤ 学校行事を生徒の実行委員会を中心に創り上げ、自主的・実践的な力を育成する。
 - ⑥ 各教科、総合的な学習の時間に「まちづくり学習」を設定し、保護者、地域と連携して探求学習を進め、より良い地域づくりのために主体的に考え、行動する態度を育てる。
 - ⑦ 職場体験で地域への貢献意識を高め、自分のまちのより良い姿に向けた具体策を考えさせる。
- (2) 特色ある教育活動
- ① 学校全体で、不登校対応に取り組み、定期的なアンケートをもとに教育相談機能を高め、生徒に寄り添い、不登校の未然防止と学校復帰に努める。
 - ② コミュニティスクールの機能を生かした学校づくりを行い、小中一貫教育を広く発信し、教育活動に外部の関心を集め、生徒、教職員の意欲の向上と生活態度やサービスを正す。
 - ③ 小中一貫教育の在り方を再構築し、交流行事等実現可能な活動を創出する。
- (3) 生活指導、進路指導
- ① 生徒の生命を第一に考え、安全な学校生活のために共通理解を図り、組織的に対応する。
 - ② 教育相談担当者の組織を設置して、いじめ等の問題行動や不登校の未然防止に努める。
 - ③ 上級生の体験談やキャリアパスポートで、過去を踏まえ、将来を見通した課題解決に臨ませる。

小中一貫教育推進に向けた方策

- 小中一貫校基準「自分の考えをもち、理由をそえて説明できる生徒」
- ・ 定期的に学園会議と担当者会議を開くことで
 - ① 小中一貫校の意義を確認し、連携して「知・心・形の統合」を推進する。
 - ② 小中合同で教科指導研修会やOJTを推進し、教師の授業力・指導力の向上を図る。
 - ③ 生活指導の情報交換をもとに基本的な生活習慣や授業規律の大南スタンダードを作る。
 - ④ 小中一貫した生活指導、キャリア教育等で自律心を育て、自らの生活向上を促す。